資料３

滝川市の現状と課題

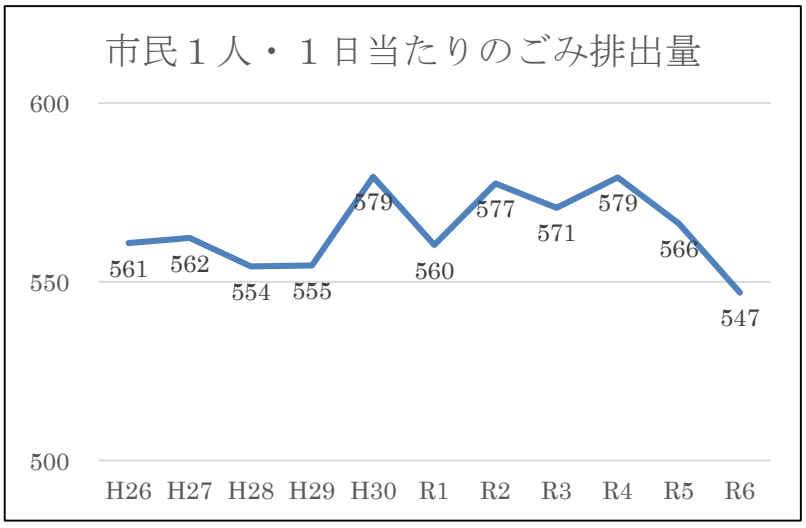
１．生活環境の現状と課題

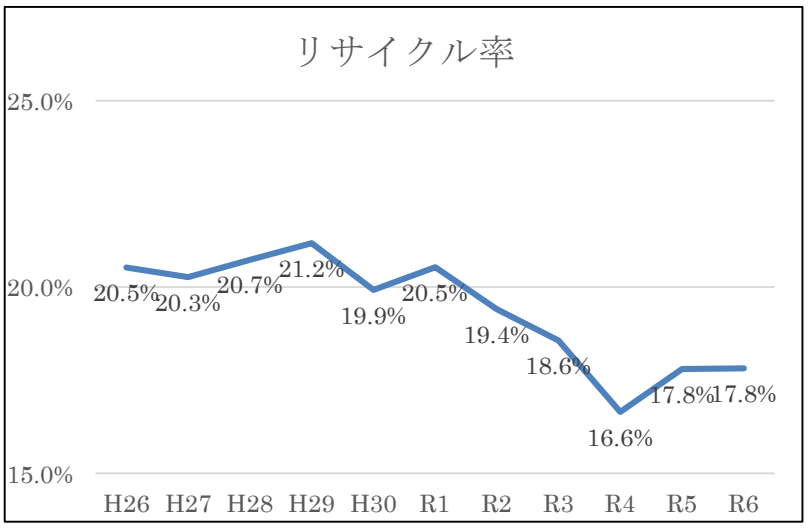
● 現状

年度	内容
平成 26 年度	・ごみ処理料金の見直しをしました。 ・資源ごみに雑がみを追加し、新たに有害あるいは危険なごみを特定品目（電池、蛍光灯、スプレー缶など）とし、巡回収集を開始しました。
令和３年度	・小型家電機器類の拠点回収を終了しました。
令和４年度	・品質の高いペットボトルのリサイクルを行うためラベルは必ず剥がして分別するようになりました。 ・施設の老朽化により、粗大センターでの資源ごみの拠点回収を終了しました。

● 課題

平成 27 年度と比較して、滝川市の１人・１日当たりのごみ排出量は横ばい傾向にありますが、リサイクル率は低下しています。ごみの分別を促し、循環型社会を目指す必要があります。





2．地球環境の現状と課題

● 現状

（1） 日本における温室効果ガス（CO2など）の削減に向けた取組

国は 2050 年ネット・ゼロの実現に向けた目標として、2035 年度、2040 年度において、温室効果ガスを 2013 年度からそれぞれ 60%、73%削減することを目指すとしました。

（2） 滝川市の二酸化炭素排出量（推計）

平成 27 年　326 千トン　→　令和４年　253 千トン（22.4%の減少）

※出典：自治体排出量カルテ（環境省）

（3） 地域における新エネルギーや省エネルギー機器の導入状況

- 庁舎及び学校などの公共施設への太陽光発電設備や LED 証明設備の導入をしています。
- 町内会等が維持・管理する街路灯を LED に切替促進するための補助金を支出しています。
- 中空知衛生施設組合（リサイクリーン）で、生ごみを利用したメタンガス発電をしています。
- 中・北空知廃棄物処理広域連合（エネクリーン）で、可燃ごみを焼却した熱を利用した発電をしています。
- 石狩川流域下水道組合奈井江浄化センターで、し尿や浄化槽汚泥、下水道の汚水を利用したメタンガス発電をしています。

● 課題

世界的に温室効果ガスの削減は重要な課題となっています。省エネルギー対策の推進が求められているほか、これまで利用されていなかった未利用エネルギーの利用を検討するなど、温暖化防止に寄与することが求められています。

3．自然環境・農業の現状と課題

● 現状

（1）河川

市内には、国内３番目の長さを誇る石狩川とその支流である空知川の二大河川が流れています。その他、須磨馬内川、熊穴川、江部乙川、ラウネ川など全体で２０を超える河川があります。

（2）森林・森林面積

- 道立花・野菜技術センター及び丸加高原にある牧野の周辺の天然林と丸加高原以東のトドマツ、エゾマツを中心とした人工造林に大別されます。
- 令和６年の滝川市の森林面積：１，２２６ｈａ（総面積の約１１％を占める）

  天然林：６４７ｈａ　人工林：５０４ｈａ

※参考資料：北海道林業統計

（３）農家戸数・経営耕地面積

・農家戸数：平成２７年　４０３戸　→　令和２年　３３８戸（16.1％の減少）

・経営耕地面積（田・畑・樹園地）：

平成２７年　約４，０９４ha　→　令和２年　約４，０５２ha（1.1％の減少）

※参考資料：農林業センサス

● **課題**

水循環や物質循環の過程において、農地、森林、河川のそれぞれが密接な関連性を持ち、環境保全に重要な役割を果たしています。水や空気をはじめ、私たちにもたらす自然の恵みを持続可能な状態に保つため、これら自然環境を一体的に保全していかなければなりません。

４．環境コミュニティの現状と課題

● **現状**

（１）市民団体等の状況（たきかわエコネット登録団体）

・ＮＰＯ法人まちづくり・川づくりサポートセンター

・たきかわ環境フォーラム

・江部乙丘陵地のファンクラブ

・日本野鳥の会滝川支部

・滝川消費者協会

・たきかわプロギング

たきかわエコネット登録団体の情報をホームページやLINEにより発信しています。

（２）環境教育

総合的な学習や体験学習、課外学習の時間など授業における環境学習、市民団体や行政による自然体験学習など、子供たちの環境教育が盛んに行われています。

● **課題**

第２次計画の目標値は概ね達成されておりますが、環境に対する意識をより一層高め、市民一人ひとりが環境に配慮した行動を実践するように努める必要があります。

また、市民が気軽にイベントや講演会等に参加することで環境コミュニティの広がりを目指す必要があります。